

## 瀬戸内映画『円明院～ある95歳の女僧によれば』岡山映画祭招待上映のお知らせ

報道関係各位

2009年10月31日

エムレックス・プロダクションズ (MRex Productions、代表：上杉幸三マックス&タハラレイコ、621 Baltic Street 2F, Brooklyn, NY 11217, USA)

この度、私たちエムレックス・プロダクションズ製作の長編クリエイティブ・ドキュメンタリー映画『円明院～ある95歳の女僧によれば』が、岡山映画祭2009クロージング作品として、第5回岡山映像祭（岡山市・岡山芸術祭・岡山映画祭主催）にて特別招待上映（日本初公開）されることになりましたので、お知らせいたします。

### ■ 作品背景

香川（飯山町）の農家から7歳で寺に里子に出され、18歳で単身四国から瀬戸内海を渡り、造船の町・宇野の歴史とともに歩みながら真言宗寺院・円明院を建立した老尼僧、故小川貞純（おじゅっさん）。男性優位の地方真言仏教界でただ一人、彼女はどんな思いで女性として僧侶として生きたのか。

玉野市を故郷に持ちニューヨークで活動するタハラレイコ・上杉幸三マックス共同監督が、夢を追って海を渡った自分達の歴史をおじゅっさんの人生に重ねながら、彼女の思いと女性としての幸せや独立の意味を9年の歳月をかけて探し続けた渾身の作。

2007年ハワイ国際映画祭プレミア上映（158分バージョン）、昨年にはニューヨークで3日間の満員御礼上映、本年9月にはハワイ州全土のタイム・ワーナー・ケーブルで1か月間特別オン・ダイヤモンド放映された話題の風変わり探偵物語のドキュメンタリーが、ついに日本で初公開される。

全米芸術基金・ジェローム財団・日米友好基金・ニューヨーク州芸術評議会他助成作品  
クリエイティブ・ドキュメンタリー 124分、4:3、モノクロ&カラー、2008  
日本語/英語（英語ナレーション部分は日本語字幕付き）  
作品ウェブサイト/DVD販売：<http://mrex.org> メール：[info@mrex.org](mailto:info@mrex.org)

### ■ 制作者について

私たちタハラレイコ・上杉幸三マックスは、岡山県玉野市を故郷に持ち、瀬戸内とニューヨークを拠点に活動する自主制作映画制作チーム（タハラは東京出身だが上杉との結婚により宇野港が第二のふるさとに）。『円明院～ある95歳の女僧によれば』は、アメリカの公私財団などから資金協力を得、子育てしながら長年かけて2人で仕上げた。制作と並行して、タハラはアメリカの大学で非常勤講師としてドキュメンタリー史/理論、また日本映画などを教え、上杉はテレビや映画のドキュメンタリークルーとして世界中を取材。この秋より新作制作のために上杉は玉野に居を移している。

### ■ 日時

一回目：11月28日（土）1pm～  
二回目：11月29日（日）3:30pm～

上映後、上杉共同監督出席のQ&Aあり！タハラ共同監督からのビデオレターも...

### ■ 場所：岡山デジタルミュージアム

（JR岡山駅西口向かい、リットシティビル南棟4・5階）  
〒700-0024 岡山市駅元町15-1

専用駐車場、契約駐車場はありません。

地下駐車場（リットパーキング）のご案内

地下1F・2F/270台駐車可能 利用料金：30分につき150円昼間（7:30～22:00）

■ 定員数：各回80名

■ 料金

一般：前売 1000円 当日1300円、中高校生：500円 60歳以上：800円 身障者及び付き添いの方：800円 一般以外は前売/当日同一料金。お得な全作品共通前売りフリーパス（12枚&6枚綴り）もあり。

■ 上映会主催者問い合わせ：

岡山映画祭2009事務局（しあわせの青い鳥福祉作業所内）電話/ファックス：086-254-0238（担当 仲地=なち）メール：boken@mx1.tiki.ne.jp  
[http://ww1.tiki.ne.jp/\\_boken/intro.html](http://ww1.tiki.ne.jp/_boken/intro.html)

または

岡山映像祭 メール：[oiff@excite.co.jp](mailto:oiff@excite.co.jp) <http://oiff.web.fc2.com/>

■ 制作者問い合わせ [info@mrex.org](mailto:info@mrex.org) <http://mrex.org>

■ 制作者の言葉（共同監督：タハラレイコ・上杉幸三マックス）

おじゅっさんの気持ちを探しているうち、自分達が法事を通して関わりを持ってきた地元仏教界の、予想だにできなかった意外な一面をかいま見ることになった。おじゅっさんは自分を貫くために一言も泣き言を言わずに他界された。でも、彼女が生きた世界を一般の日本人の私達が知ることは、自分達自身と仏教との関わり方をもう一度考えさせてくれる大切なことのように思う。とは言っても、私達の主眼はいつもおじゅっさんの生き方から自分達が何を学べるか、だった。本当に多くのことを学ばせてもらった。今もおじゅっさんを思って、月を見る度に手を合わせる。

■ レビュー

“ある意味ポートレート、ある意味探偵小説、ある意味文化・宗教思索、そしてある意味瞑想的自己探求の旅。95才の女性住職、小川貞純の過ごした独自の時、人生、またそのレガシー（次世代への遺産）と、家族と共にアメリカに暮らす日本人女性映像作家タハラレイコの頑固一徹に放浪する好奇心、その二つが深く共鳴しながら繋がり、一本の糸が紡がれていくところに、映画『円明院』の面白さがある。レイコの妙に聞かせる、だが繊細な語りが、円明院という寺の精神世界に併存する簡素性と複雑性の両者を見出しに行く。ミステリー、不思議なニュアンス、慈愛、そして深い畏敬の念が、共同監督のマックス作曲による素晴らしい音楽と伴に綴られたこの映画『円明院』は、長年僕が見た中でも最も創造力に富んだ手法、語り口のドキュメンタリーの一つだ。”

—アラン・ベルリナー 映像作家（NY映画祭、サンダンス映画祭等出品・入賞多数）

”この長編実験映画を通して見えてくるのは、日本仏教の現実と女性のあり方についての非凡な洞察である。それにも増して、1つの伝記物語がムラカミ小説に値するほどの紆余曲折を経て、次第にサスペンスに満ちたミステリーへと変容していくのが面白い。映画『円明院』は幅広いオーディエンス、日本文化、女性学、宗教学、文化学の専門家から、回顧録や伝記、実験映画の愛好家まで、を魅了するだろう。しかしこの作品について最も特筆すべきは、作家の感性を味わいたい、という程度の期待で見始めた聴衆の度肝を抜く、その楽しい裏切りの仕組みであろう。”

—デオドラ・ボイル ドキュメンタリー史研究家・作家・大学教授

■ 岡山映画祭/映像祭について

1995年にドキュメンタリー映画祭として発足した岡山映画祭は、その後ジャンルを拡げながら国内外の質のいい自主制作映画やスタジオ映画を隔年秋に数週間に渡って紹介する。岡山映像祭は毎年一回、岡山市芸術祭の一環として一週末に開催、岡山にゆかりの作品を中心に紹介する。本年は映画祭/映像祭が同時開催される年にあたり、11月28・29日は岡山映像祭の日であり、同時に岡山映画祭クロージング企画の日でもある。

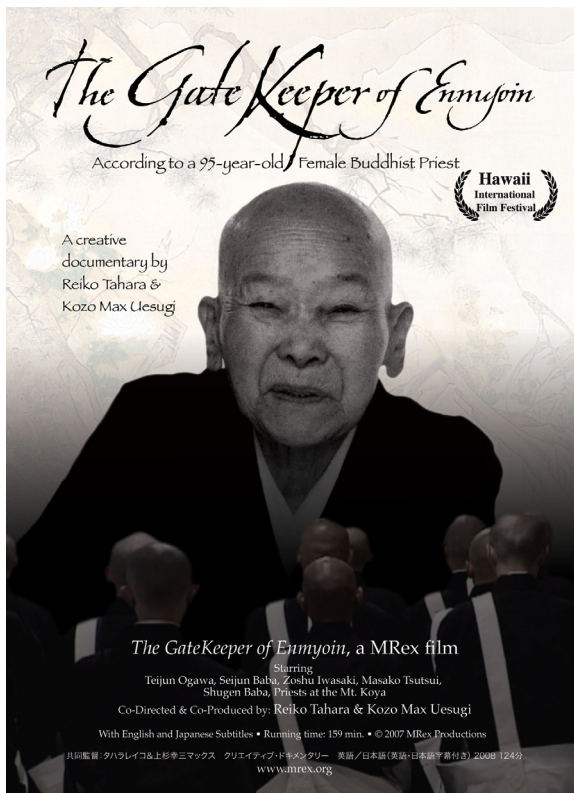
岡山映画祭・岡山市芸術祭・岡山市主催

## 2009年岡山映像祭 クロージング企画特別上映

# 円明院

～ある95歳の女僧によれば～

クリエイティブ・ドキュメンタリー作品 124分、2008  
ハワイ国際映画祭参加作品



11月28日(土) 1pm～

11月29日(日) 3:30pm～

於：岡山デジタルミュージアム (岡山駅西口)

上映後、上杉共同監督出席のQ&Aあり!タハラ共同監督からのビデオレターも...

予約・詳細は岡山映画祭 <http://ww1.tiki.ne.jp/~boken/intro.html> メール:  
boken@mx1.tiki.ne.jp 電話:086-254-0238  
又は岡山映像祭 <http://oiff.web.fc2.com/> メール:oiff@excite.co.jp  
一般:前売 1000円 当日1300円 中高生:500円 60歳以上:800円

### <作品背景>

香川の農家から7歳で寺に里子に出され、18歳で単身瀬戸内海を渡り、造船の町・宇野の歴史とともに歩みながら真言宗寺院・円明院を建立した老尼僧、故小川貞純(おじゅっさん)。彼女はどんな思いで女性として僧侶として生きたのか。

玉野市を故郷に持ちニューヨークで活動するタハラレイコ・上杉幸三マックス共同監督が、夢を追って海を渡った自分達の歴史をおじゅっさんの人生に重ねながら、9年の歳月をかけて彼女の思いを探し続けた渾身の作。

2007年ハワイ国際映画祭プレミア上映(158分バージョン)、昨年にはニューヨークで3日間の満員御礼上映、本年9月にはハワイ州全土のタイム・ワナー・ケーブルで1か月間特別オン・ダイヤモンド放映された。今映画祭出品が日本での初公開となる。

助成団体:全米芸術基金・ジェローム財団・日米友好基金・ニューヨーク州芸術評議会ほか  
日本語/英語(英語ナレーション部分は日本語字幕付き)

### レビュー

“ある意味ポートレート、ある意味探偵小説、ある意味文化・宗教思索、そしてある意味瞑想的自己探求の旅... 95才の女性住職、小川貞純の過ごした独自の時、人生、またそのレガシー(次世代への遺産)と、家族と共にアメリカに暮らす日本人女性映像作家タハラレイコの頑固一徹に放浪する好奇心、その二つが深く共鳴しながら繋がり、一本の糸が紡がれていくところに、映画『円明院』の面白さがある。レイコの妙に聞かせる、だが繊細な語り、円明院という寺の精神世界に併存する簡素性と複雑性の両者を見出しに行く。ミステリー、不思議なニュアンス、慈愛、そして深い畏敬の念が、共同監督のマックス作曲による素晴らしい音楽と共に綴られたこの映画『円明院』は、長年僕が見た中でも最も創造力に富んだ手法、語り口のドキュメンタリーの一つだ。” —アラン・ベルリナー 映像作家(NY映画祭、サンダンス映画祭など出品・入賞多数)

”この長編実験映画を通して見えてくるのは、日本仏教の現実と女性のあり方についてのある非凡な洞察である。それにも増して、1つの伝記物語がムラカミ小説に値するほどの紆余曲折を経て、次第にサスペンスに満ちたミステリーへと変容していくのが面白い。映画『円明院』は幅広いオーディエンス、日本文化、女性学、宗教学、文化学の専門家から、回顧録や伝記、実験映画の愛好家まで、を魅了するだろう。しかしこの作品について最も特筆すべきは、作家の感性を味わいたい、という程度の期待で始めた聴衆の度肝を抜く、その楽しい裏切りの仕組みであろう。”  
—デオドラ・ポイル ドキュメンタリー史研究者・作家・大学教授

### 制作者の言葉(共同監督:タハラレイコ・上杉幸三マックス)



タハラレイコ

おじゅっさんの気持ちを探しているうち、自分達の生活に直接関わりのある地元仏教界の、予想だにしない意外な一面をかいま見るようになった。おじゅっさんは自分を貫くために一言も泣き言を言わずに他界された。でも、彼女が生きた世界を一般の日本人の私達が知ることは、自分達自身と仏教との関わり方をもう一度考えさせてくれる大切なことのように思う。とは言っても、私達の主眼はいつもおじゅっさんの生き方から自分達が何を学べるか、だった。本当に多くのことを学ばせてもらった。今もおじゅっさんを思って、月を見る度に手を合わせる。



上杉幸三マックス

作品ウェブサイト/DVD販売: <http://mrex.org> メール: [info@mrex.org](mailto:info@mrex.org)